

さっぽろ生き物さがし2022

★ さっぽろ生き物さがし2022について

札幌市では、毎年春から秋にかけて、市内の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなと調べる「一斉調査」を実施しています（2015年度から継続実施）。2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での3回目の開催となりましたが、予定通り5月から9月まで実施することができました。今回も他の多くのイベントが自粛・中止となる中で、大変多くのお申込みをいただきました。

● 今回の調査対象の生き物たち ●

草原の野鳥
のなかま

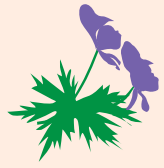
チョウのなかま

マルハナバチ
のなかま

トンボのなかま

初夏にさく花

夏や秋にさく花



★ 調査結果の概要について

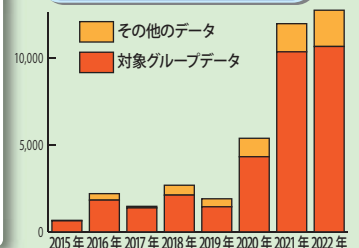
これまでで最多だった2021年度の参加者数とほぼ同様の応募があり、**401チーム**、約**1,930名**もの方からの結果報告により、**12,719**件（対象種10,638件）のデータが得られました。

調査した地区数は**446地区**となり、市内の37%の地区を調査することができました。

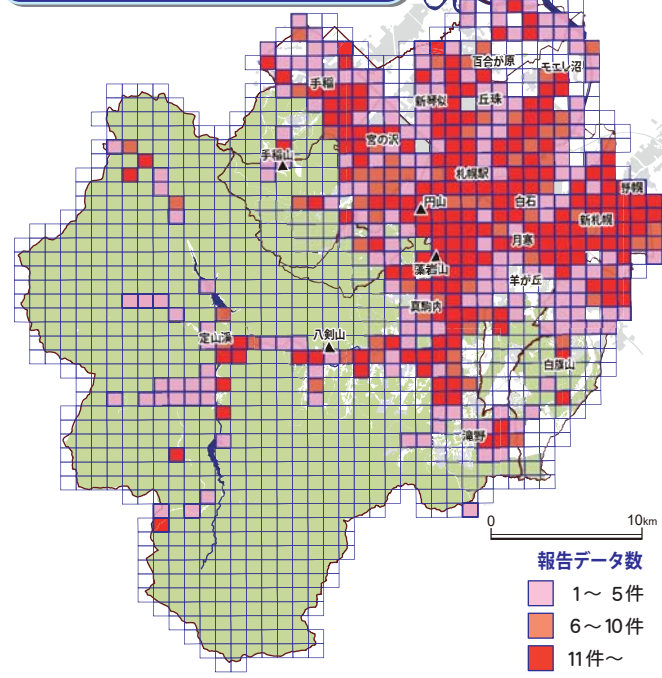
今回の調査の概要

- 調査期間 2022年5月20日～9月30日
- 対象範囲 札幌市内（1キロメッシュ数1,192）
- 報告者数 401チーム（申し込み1,146チーム）
- 調査報告数 データ数12,719件
- 調査地区数（1キロ四方単位）446地区（市内の37%）

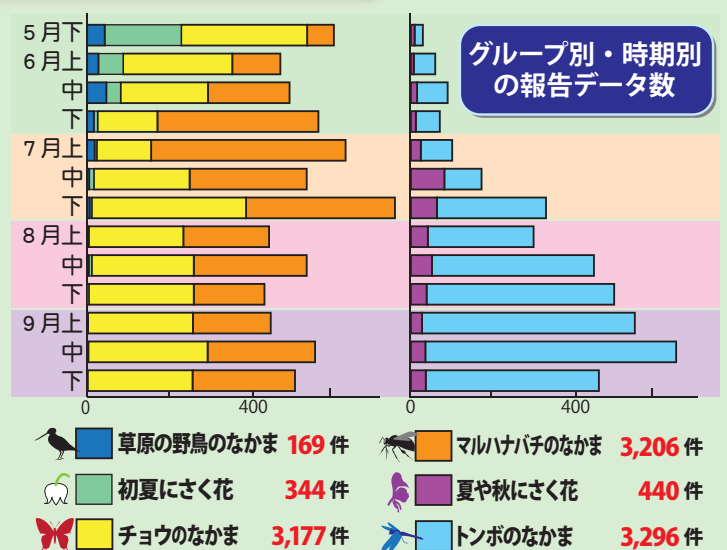
報告データ数の推移



報告データのあった地区 2022



グループ別・時期別の報告データ数



今回もっとも多く報告があったのはトンボのなかまで、次いでマルハナバチのなかまでした。

季節別に見ると、初夏にさく花は5月下旬に、トンボは8月中旬以降に多くの報告がありました。2021年の夏の猛暑の影響で少なかったと思われるマルハナバチの報告が今回は増加し、前回の2倍近い件数となりました。

★ グループごとの結果紹介

※赤い種名は外来種です。分布図のメッシュマーク(□)はそのグループの報告があった箇所を示しています。

マルハナバチのなかま

種名	地区数	データ数
・外来タイプ	239地区	1,575
・三色タイプ	136地区	684
・灰色タイプ	89地区	417
・黄色タイプ	86地区	393
・赤色タイプ	39地区	107

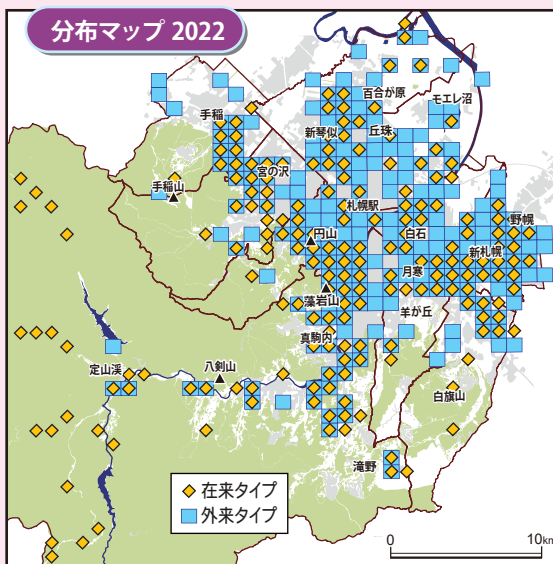
アカマルハナバチ (赤色タイプ)



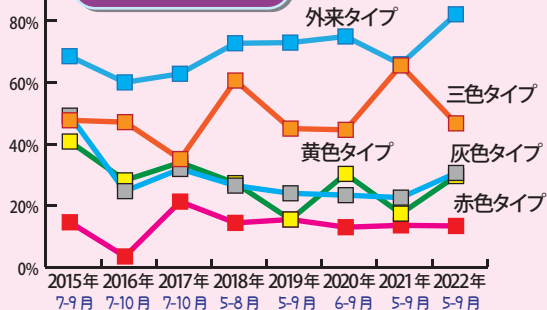
(AF 発見隊)

2021年と同様に、在来種4タイプは市内のほぼ全域にわたって分布し、外来種は低地(市街地と農村部)にのみ分布する傾向が顕著でした。しかし外来種は藤野～定山溪、手稲山、滝野といった地区でも見られ始めており、確認地区がわずかながら増加しています。マルハナバチ類は2021年の夏、市内を含む全道で減少傾向が見られ、2022年の春も例年より少なめでしたが、夏以降は回復傾向でした。ただ三色タイプは北区等で確認メッシュ数が減っており、マルハナバチにとって好ましい生育環境が少ない地域であることが関係しているかもしれません。

分布マップ 2022



確認地区率の推移



セイヨウオマルハナバチ (盗蜜)



(チーム白土家)

セイヨウオマルハナバチ



(coezo)

セイオオマルハナバチ (三色タイプ)



(たねちゃん)

草原の野鳥のなかま

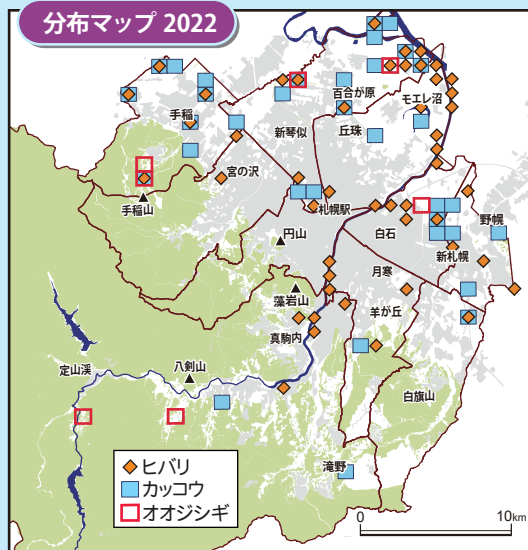
種名	地区数	データ数
・ヒバリ	48地区	93
・カッコウ	34地区	66
・オオジシギ	7地区	7

ヒバリ



(AF 発見隊)

分布マップ 2022



草原の野鳥は、2019年以降の対象となりましたが、データ数は増加しました。ヒバリは河川沿いの草地で確認されていることがよく分かります。カッコウは平野部で広く確認されました。

チョウのなかま

種名	地区数	データ数
・モンキチョウ	212地区	857
・ベニシジミ	134地区	387
・クジャクチョウ	82地区	211
・コムラサキ	30地区	48
・キアゲハ	181地区	497
・アゲハ	91地区	188
・カラスアゲハ	37地区	73
・ミヤマカラスアゲハ	21地区	27
・カラスアゲハ類	58地区	91
・エジシロチョウ	86地区	144

モンキチョウ



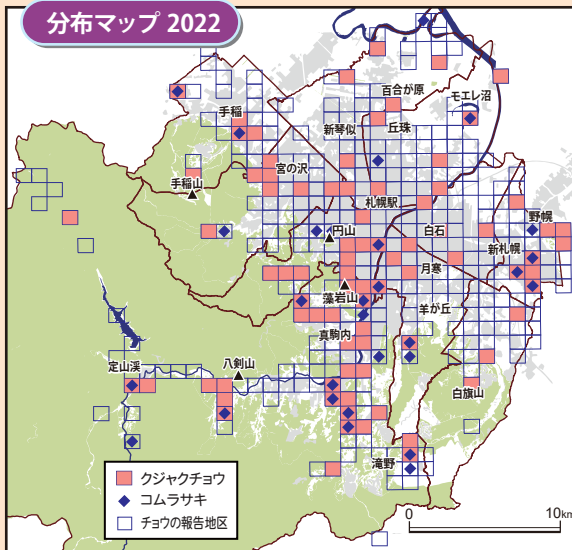
(熊介チーム)

エジシロチョウ



(めすよしたんぽんたい)

分布マップ 2022



昨年度と比べてモンキチョウやカラスアゲハ類は地区数が減少しており、発生数が減少したと思われます。一方、クジャクチョウはデータ数が4倍、地区数は2倍になっており、発生数がかなり多かったようです。都市部でも多くの報告があり、生息していることが確認されました。

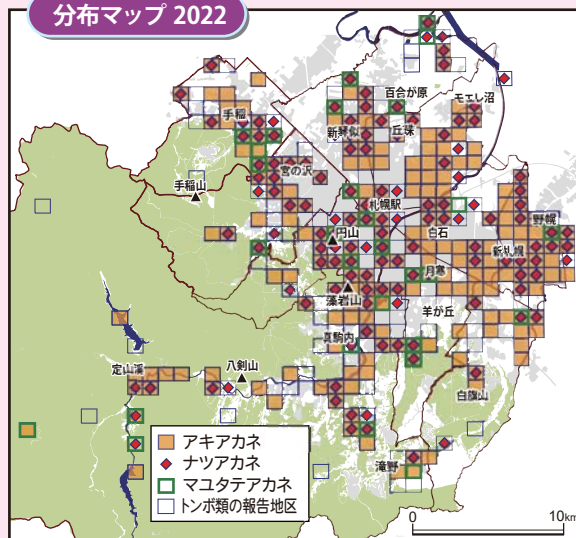
トンボのなかま

種名	地区数	データ数
・アキアカネ	218地区	1,055
・ノシメトンボ	175地区	596
・ナツアカネ	137地区	422
・ミヤマアカネ	43地区	141
・シオカラトンボ	80地区	268
・シオヤトンボ	21地区	46
・オニヤンマ	53地区	139
・コオニヤンマ	11地区	34
・オオルリボシヤンマ	25地区	46
・ルリボシヤンマ	34地区	82
・ルリボシヤンマ類	7地区	7

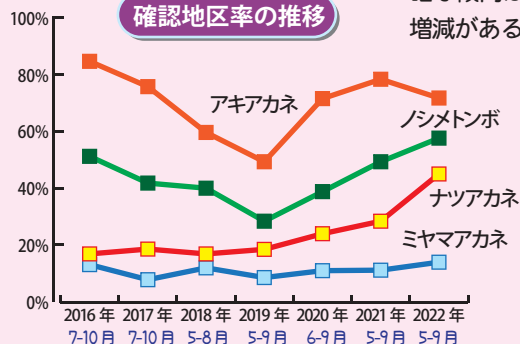
トンボの報告数や分布の傾向は、これまでと大きく変わりませんでした。その中でナツアカネは2021年の93地区・29%から大きく増加して137地区・45%と、これまででもっと多くの地区で確認されました。増加の要因は分かりませんが、もともと札幌にほとんど生息していなかったトンボであるため、気候の変化による影響も考えられます。

そのほかのトンボも、これまで7年間に増減が見られていますが、明確な傾向はなく、年により発生数に増減があるようです。

分布マップ 2022



確認地区率の推移



ナツアカネ



(川口タケム)

ルリボシヤンマ



(オニヤンマさん)

オニヤンマ



(さっぽろ生き物ぼろや)

初夏にさく花

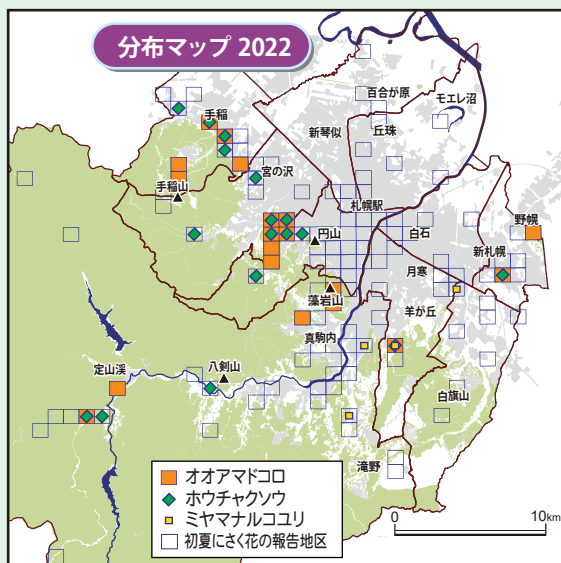
種名	地区数	データ数
・スズラン	8地区	17
・スズラン植栽	4地区	6
・ドイツスズラン	74地区	145
・オオアマドコロ	20地区	37
・ホウチャクソウ	18地区	32
・オオタチツボスミレ	29地区	35
・ツボスミレ	11地区	14

オオアマドコロ



(青時雨)

分布マップ 2022



対象種はいずれも自然林に生育する植物で、確認地区はそのような環境が残っていることを示しています。オオアマドコロやホウチャクソウは手稲区や西区の山ぎわで多く確認されました。

なお、庭や公園に植えられた近縁種の報告も多く、それらは別集計としました。スズランでは園芸種のドイツスズランのほか、在来種を植栽したと思われるものもありました。

夏や秋にさく花

種名	地区数	データ数
・オオウバユリ	70地区	176
・オオハンゴンソウ	66地区	102
・クサフジ	39地区	51
・キツリフネ	29地区	41
・エゾトリカブト	25地区	35
・ツリガネニンジン	6地区	13

オオウバユリ



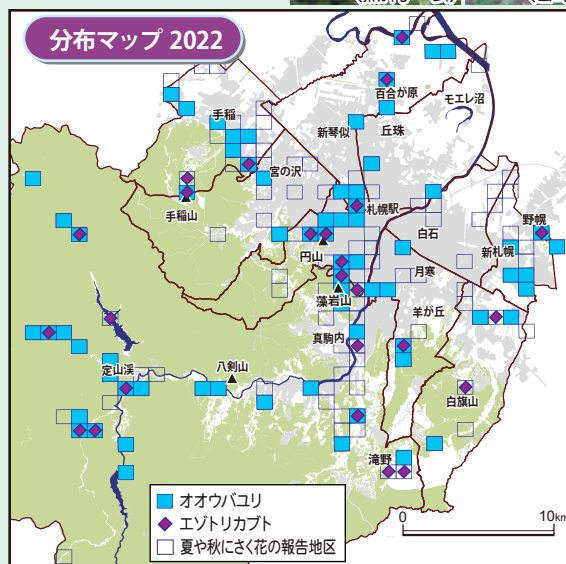
(熊谷チーム)

オオウバユリ



(山崎チーム)

分布マップ 2022



オオウバユリとエゾトリカブトはやや湿った落葉広葉樹林によく見られる種で、開拓以前は低地から山地まで広く分布していたと考えられます。開発によって低地では生育地が減りましたが、オオウバユリは市街地の川沿いのヤナギ林のような環境でも確認され、世代交代しながら生き延びるたくましさも持っていることが分かります。

エゾトリカブトも、山地や山すそを中心に確認されていますが、少ないながら低地の一部でも確認されています。

★ 参加チームのランキング発表！

報告数（今回対象のグループ）ランキング

※new は今回初参加チーム

チーム名	報告 データ数	報告 地区数	参加 人数	チーム名	報告 データ数	報告 地区数	参加 人数
1 イッシー	1982	69	4	11 オニヤンマさん	174	15	4
2 AF 発見隊 new	1380	20	2	12 月寒生き物調査会 new	164	13	2
3 チームカーブ	591	60	4	13 長期出張 生物部 new	163	10	2
4 たんけん	547	33	3	14 青時雨	138	10	1
5 野鳥大好き	407	41	4	15 チーム白土家	135	24	3
6 熊介チーム	286	37	2	16 中央小キッズ	130	25	7
7 さゆっち	254	16	3	17 さっぽろ生き物ぼうや	114	32	4
8 チーム龍	244	15	3	18 ドラしょうた new	103	32	2
9 チームさんたるべつ	243	29	9	19 明日へ一歩 new	100	10	40
10 あまちゃん	219	34	1	20 池田家	85	10	4

エゾオマルハナバチ（三色タイプ）



（チームユカク）

オニヤンマ



（KUWAGATA）

ヒメアカタテハ



（さっぽろ生き物ぼうや）

コムラサキ



（野鳥大好き）

★ 写真をありがとうございました！ コンテストの結果発表！

参加者の皆さんには今回も多くの写真をお送りいただきました。事務局選考により選ばれた20点の写真について、札幌市のウェブサイトにて人気投票を行い（12/23～1/17）、ベスト5を決めました!!（総投票数：191票、点数は各投票の1～3位に重みづけして集計） 上位10点を以下に掲載します。



1位：アゲハ（チーム龍）



2位：ニホンカワトンボ（月寒生き物調査会）



3位：オオジシギ（ヤマセミ）



4位：マルハナバチ（三色タイプ）と
シオヤアブ（きよた KAZE ラボ）



5位：クジャクチョウ（さっぽろ生き物ぼうや）



ナツアカネ（麦ちゃん）



オニヤンマ（あすさそ）

今回写真は6,785点を送付いただきました。もっとも多く写真が送られてきたのはマルハナバチの外來タイプで、以下アキアカネ・三色タイプ・ノシメトンボと続きました。



ヒバリ（M&Y）



エゾオマルハナバチ（イッシー）



エゾオマルハナバチ（今井チーム）



Twitterでも情報発信しているのでフォローしてまいりゃー!!



札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコー先生」のTwitterはこちら！

★ おわりに

2022年の「さっぽろ生き物さがし」は、新型コロナウイルス感染症の影響下で3回目の開催となりました。その中でも引き続き多くの方にお申込みいただき、市内の生き物たちとふれあい、情報を集める機会がたくさん生まれました。今後も札幌市では、対象グループを変えたり手法を改善したりしながら調査をつづける予定ですので、ぜひご参加ください。また、提供していただいた調査データは、札幌市の動植物データベースに登録し、今後の施策に活用される予定です。

指定したグループ以外の生き物の報告もたくさんいただいています。これまで同様、セミ類は神戸崇さん（北海道大学）、両生類・爬虫類は徳田龍弘さん（北海道爬虫両棲類研究会）という専門家に種類の判定やアドバイスでご協力いただきました。

○さっぽろ生き物さがし2022事務局（さっぽろ自然調査館内）

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル3階
☎電話 011 (892) 5306 ☎ファクス 011 (892) 5318（担当：渡辺・丹羽）

○主催 札幌市環境局環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
☎電話 011 (211) 2879 ☎ファクス 011 (218) 5108

✉電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

■監修・協力・写真提供 神戸 崇・徳田龍弘・堀 繁久・道川富美子

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/04chosa.html>

発行：2023年2月